

社団法人 日本ボディビル連盟
平成19年度 第1回 総会 議事録 (抜粋)

日 時 平成19年6月3日(日) 午後3時開会
場 所 日本青年館 アルデ
会長挨拶

お陰様で日本ボディビル連盟も54年目を迎え、昨年はカタール・ドーハで開かれたアジア競技大会で銀メダル1個を獲得しておりますが、先日、アジア連盟から連絡があり70kg級で4位だった近藤賢司選手の上位の選手がドーピングテストで失格になったため3位になりました。

アジア競技大会では4名の選手が出場して2名が銀メダル・銅メダルを獲得しました。メダルの授与に付いては東アジアボディビル選手権が来る8月2日から6日に山口市で開催されますが、その時にアジア連盟のポールチュア事務総長が持参して授与されます。

ボディビルもオリンピック競技団体と肩を並べて着々と進んでいる状態であり、日本連盟がやらなければならないことは多々ありますが、ドーハ・カタールのアジア競技大会ではドーピング陽性者が続出しており、OCAではボディビル競技を出すべきでないという声も出てきております。

今、それを巻き返す為に、アジアボディビル連盟、国際ボディビル連盟と日本連盟が一体となりロビー外交を行っている最中です。ドーピング問題は厳しく、我々がクリーンなスポーツとして評価される為には徹底して取り組まなければならない問題です。

もう一つの問題としてボディビルというのは、陸上競技とか、水泳競技のように物理的に勝者が測定できる競技ではなく、シンクロやフィギュアスケートなどと同様に美の要素が入っており、そこは公平性を疑問視する問題が出て、採点競技は共通の悩みをもっています。

ボディビルもそういうことでアジア競技大会で騒いでいる国がりましたが、そのようなことでOCAにボディビルは問題視されています。ドーピング問題とジャッジの公平性、これをしっかり確立していくことによって、ボディビルは堂々としたスポーツとして確立され、オリンピック参加の可能性が出てきますので、その前にアジアを確立しなければならない。そういう問題に取り組んでいる状況です。

それから日本連盟としては、スポーツ競技として伸びていくには選手が増えなければならない。日本はマスターズの選手が多く、これは素晴らしいことで健康づくりの面からみたら、ボディビルは大変貢献をしています。

しかし、ジュニア層となると、まだまだ他の国に比べて少なく、寥々たる問題です。これまでジュニアとマスターズの大会を同時開催しており、マスターズの選手は今や100名以上出ますが、ジュニアの選手は一昨年までは4~5名しか出ていません。このような状況では将来ボディビル層が薄くなってしまいますので、昨年高等学校選手権大会を開催したところ18名の選手が出場して、その上位10名がジュニア選手権大会に参加し、ジュニア選手権が今後の発展を予期する状況となった訳です。選手強化でもジュニアから鍛えていかなければ、外国の列強と戦える状況でないので、ジュニア強化を今後の重点課題としていきたいと思っています。

この方向に今年は第一歩、二歩固めて行きたいと思っておりますので皆様方のご協力を御願いし、また本日の懸案の諸事項についてご審議を御願ひして私のご挨拶とさせていただきます。

議長選出 定款22条により、議長は玉利齊会長を選出。

定足数の確認 正会員総数59名。本日出席正会員24名、委任状による出席正会員35名、合計出席正会員59名により正会員総数の過半数を上回り、定款第24条に基づき総会は成立。

[第一号議案]平成18年度事業報告及び収支決算案について

別途添付書類を基に審議され、平成18年度事業報告及び収支決算について、全会一致で承認。

【第二号議案】平成19年度日本連盟専門委員会案について

専門委員会の中で、選手強化委員会(旧名称競技力向上委員会)、アンチドーピング委員会(旧名称ドーピングコントロール委員会)は名称をJOC他団体に合わせたこと、また選手強化については、大会など競技スポーツ選手として実績のある方を委員に推薦し、ジュニア委員会は今までジュニア&マスターズとして活動していたが独立して委員会を発足したこと、さらに会長補佐役を2名に拡大したことが報告された。

なお、組織委員会は各ブロック代表理事で構成されていることが報告され、役員案ともに全会一致で承認。

【第三号議案】平成19年度日本連盟主催大会審査員指名案について

主催大会審査員指名案については、成績、地域などをもとに各審査員に打診した。数回の調整の後、今回の指名案となったことが報告され、今後審査員の都合で変更することもあるので、微調整があることも含め、全会一致で承認。

【第四号議案】平成19年度国際大会派遣役員案について

微調整も含め執行部一任で、全会一致で承認。

【第五号議案】 規程の改定について

1. 公認審査員認定規程(改定)
 2. 個人情報保護規程(新設)
- 別掲のとおり、全会一致で承認。

【第六号議案】 福岡県連盟正会員・ブロック代表理事変更について

1. 福岡県連盟より申請
福岡県連盟正会員 (旧)三島勇治正会員 (新)政枝勝憲正会員
2. 九州・沖縄ブロックより申請
九州・沖縄ブロック代表理事 (旧)三島勇治理事 (新)政枝勝憲理事
上記のとおり承認。

【第七号議案】 新規加盟クラブ及び退会クラブについて

1. 新規加盟クラブ(8)

ゴールドジムスパレア宇都宮(準加盟)	栃木県連盟	代表:上山 憲一
多摩スポーツジム(準加盟)	東京連盟	代表:泉 建次
I.Sボディビル同好会(準加盟)	岐阜県連盟	代表:伊藤 智司
BODY BURN GYM(準加盟)	静岡県連盟	代表:カミヤ リチャード
ゴールドジム新居浜愛媛(正加盟)	愛媛県連盟	代表:斉藤 忠男
渡辺建設(有)ボティルクラブ(準加盟)	社会人連盟	代表:渡辺 功
(株)新開ボティルクラブ(準加盟)	社会人連盟	代表:登坂 丈朗
京浜ハイヤー(株)ボティルクラブ(準加盟)	社会人連盟	代表:青柳 一男
2. 退会クラブ(2)

ランクアップ宇和島	愛媛県連盟	代表:吉見 一弘
イワタスポーツクラブ	広島県連盟	代表:岩田 拓治

申請の中で、「多摩スポーツジム」は、日本連盟に未承認のクラブの段階で、東京オープン大会プログラムに東京連盟公認クラブとして掲載されていた。そして5月4日の東京オープン大会には多摩スポーツジム所属選手2名が出場した。このルール違反の事実について東京連盟は、調査の上書面で回答することを約束した。尚、多摩スポーツジムは平成19年1月20日に東京連盟に新規加盟申請をしているので、新規加盟クラブとして認めることが決定された。

また、社会人連盟より申請のあった「加藤鍼灸治療院ボディビルクラブ」については北海道連盟との話し合いが未決着とのことで申請保留となり、その他の新規加盟と退会が全会一致で承認。

その他 報告事項

1. 三重県難波文義選手が平成18年11月イタリアにて開催の第27回世界マスターズボディビル選手権大会マスターズ50才級にて3位入賞のため、今年の日本マスターズ選手権大会の舞台で、10万円の報奨金授与を行うことが決定した。
2. 文部科学省よりの通知で「スポーツにおけるドーピングの防止に関するガイドライン」が、平成17年10月第33回国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)総会において採択された。また我が国も平成18年12月27日規約を締結し、文部科学省が積極的に活動することが示されてる。ドーピングテスト陽性選手の厳罰、並びに補助金対象事業でのドーピングテスト陽性失格者がでた場合には補助金返還となる方向性などが記載されている。尚公認クラブ、選手はドーピング防止規則において定められた通告を受けた後に、検体の採取を行わず、又はその他の手段で検体の採取を回避することは「ドーピング違反」となる。
3. 富山県連盟より吉田秀一選手復帰願いについては、NPC全米トーナメントに出場しているが、大会出場当事JBFF選手でないこと、ドーピングテストの違反行為をしていない誓約書が出ていること。以上富山県連盟が慎重に協議し申請された内容であり、審議の結果、承認された。
4. 千葉県連盟より田崎二郎氏が、3年間の審査員停止について昨年より千葉県連盟内で事情確認の結果、復帰が妥当ではないかとの栗井直樹理事より説明され、千葉県連盟吉原祐治理事長は千葉県連盟理事会で審議し報告書を提出することを約束した。
5. JOCジュニアオリンピックカップ優勝者、清水契輔選手をJOCへ「平成19年度オリンピック有望選手推薦調書」にて推薦することが報告された。清水契輔選手は東洋大学4年生、ゴールドジム所属選手。
6. JBFF監修DVD(マッスルメディアジャパン・クレイジ・ハウス)作成について昨年同様に主催大会、登録選手の取材、並びに販売の許可を与えたことが報告された。
7. 高校生ビルダーの平成18年度高校大会優勝者國井裕平選手に対し体育大学推薦の依頼があったことで高等学校長宛に推薦書を作成することを検討することが承認された。
8. 合戸孝二選手の(株)健康体力研究所との正式契約されたことが報告された。
9. JBFFがアイアンマン誌と協定書を締結したと、今後取材に協力することが報告された。
10. 男子ボディビル競技用トランクスの製造・販売覚書を株式会社THINKフィットネスと締結されたことが報告されたが、競技用トランクスの大会使用時期は日本選手権大会より実施する方向で進めることが決定した。尚JBFFホームページにて事前に発表することが報告された。
11. 日本連盟主催大会・社会人連盟主管、日本女子新人ボディビル選手権大会名称変更を求める意見があったので、社会人連盟より「日本女子チャレンジカップボディビル選手権大会」が提案された。この大会の位置づけは、新人あるいはタイトルをとったことのない選手を対象とし、女子の出場選手増大のためと示されたが、この総会には五十嵐清四郎社会人連盟理事長が委任出席のため、名称変更または継続を話し合っただけで決定することが、執行部一任として承認された。
12. 東アジアボディビル選手権大会の準備状況について、大会会場、各国役員選手受入れ、大会準備、運営などについて、山口県連盟嶋岡理事長、齊藤大会事務局より説明があった。入場チケットは、2日間での算出だけでなく1日券の対応も行うことが説明された。また各県連へ

の協力要請としてチケット販売、並びに1口(1万円)以上のプログラム掲載広告協賛依頼が嶋岡理事長より御願いがあった。

13. 医科学委員会が中高年を対象とした調査を行った。これは一般の運動愛好者と筋力トレーニング実施者による筋力比較でありその中間報告がされた。この調査研究は日本連盟医科学委員会として、石井直方委員長と古川和正医科学委員(協力ダイナミックコーポレーション)により、全国の「JBBFマスタース」選手を対象に行われている。調査訪問の際、JBBF医科学委員会の研究であることを告げずに訪問して測定を断られるケースがあったことが報告された。今後調査の際JBBF医科学委員会の研究であることを告げることと調査対象の各選手は協力をするように下部組織に要請された。

中間報告の測定結果(各種目、スピードモード)では、ボディビル選手は他のスポーツ選手より優っていた。

以上で総会は閉会した。